

1日エコライフに参加してみた感想や
温暖化防止へのメッセージをお寄せください。

・切り取って配送担当へお渡しください。
パルコープ総務部・環境担当行き

2月3回注文書のアンケート欄で

冬の1日エコライフに チャレンジしましょう

私たちの暮らしの中から二酸化炭素(CO₂)をなるべく出さないことが、地球温暖化防止につながります。効果的に省エネするには、各家庭にあった省エネが必要です。

家族で決めた1日を「わが家のエコライフデー」とし、できることを選び実際に取り組みます。

下記の問1～問5までをご家族でチャレンジし、2月3回注文書のアンケート欄にご記入ください。

注文番号	エコライフ項目	1日で減らせる二酸化炭素の量
1401	問1 暖房時の室温は20℃に設定する	173g
1402	問2 便座暖房の温度を低く設定する(中→弱)	40g
1403	問3 家族が続けて入浴し、間隔をあげない	238g
1404	問4 家族全員がシャワーを1日1分減らす	80g
1405	問5 自動車運転時はふんわりアクセル「eスタート」	532g

※1日に減らせる二酸化炭素の量は目安です。
参考：省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典」他



1日エコライフに参加した家族の人数を1～9の数字で、2月3回注文書のアンケート欄にご記入ください。メッセージは切り取ってご提出ください。



インターネット注文(eフレンズ)からも
回答できます(アンケート・資料請求ボタンをクリック)

2021年度
第3回
推進学習会
2021年12月7日

パルの商品に向き合おう ～知って選ぶと何につながる?～

会場参加30名 組合員会館で視聴11名 個人宅からのウェブ参加25名 DVD視聴参加65名 (いずれも組合員活動委員)

知ることは賢く選ぶことに通じます。生協商品のこだわりを知って、その背景にある社会的な課題(SDGsなど)を再確認し、生協で買う意味について考える機会にしよう、パルコープ商品部の和田典子さんにお話をお聞きしました。

今回は「持続可能な生産と消費(商品とくらしのあり方)」について、生協の成り立ちから歴史、パルコープの取り組みを紹介。生協は「産直商品」や利用する組合員さんの声を反映しやすい「PB(プライベートブランド)商品」などで培ってきた予約生産の商品がたくさんあります。生産者さん・産地・製造メーカーさんは、売れ先が決まっているので安心して生産に集中でき、「おいしいね。ありがとう」という声を返すことで、「これからも頑張ってください」と思っていたらどうなるか、という声も返すことが、これからの課題の一つです。つくる人と買う人(組合員さん)の近い関係が、持続可能な生産と消費につながることにあります。

「パル・よどがわ開発商品」は配送職員が中心となり、商品部や産地・メーカーさんとも開発。「直接、意見を聞ける」とも新鮮。未来につながる取り組みになっている」と言うメーカーさんや、「組合員さんから聞いた声で開発・改善でき、喜んでもらえる」と配送職員の意欲にもつながっています。普段のくらしの中で、「つくる」「運ぶ」「選んで使う」「捨てる」ことにも思いを馳せ、何を選択するのか考える習慣がSDGsにつながります。おおさかパルコープは、1990年から「3つの理念」(平和とよりよい社会・豊かな暮らしと健康・安全でよりよいものをよりよく)を大切に事業を進めてきました。みんなでこの理念が実感できるようにこれからも取り組みを進めていきます。

SDGs(エスディージーズ)とは、2015年9月国連サミットで国際社会共通の「持続可能な開発目標」を掲げました(17分野の目標・169のターゲット)。

2021年12月9日 城東組合員会館 参加者11名

いきいき昼食会城東 ～メッセージカードの取り組み～

「健康で、生きがいを持った生活をしながら、住み慣れた地域で齢を重ねていこう」と活動している、いきいき昼食会城東のみなさん。本来なら月1回で食事を作り提供するのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で集まることもままならない日々が続きました。

昼食会を利用して常連の組合員さんは高齢の方も多く、顔を合わせられずに寂しい思いをされているのでは?と思つたスタッフの提案で、お便りを出すことに。2020年のクリスマス、2021年の母の日とそれぞれ約40通出しました。今回はクリスマスと年明けにも飾れるようなメッセージ付きカードを手作り、スタンド



「手作りは大変なこともあるけど、利用者さんが喜んでくれると思うと楽しいです」とスタッフさん



想いを込めて
みんなで書きました!



ツリーとエコたわしをセットにして、スタッフが手分けして各家庭のポストへ投函しました。「『いつも調理している包丁を別な物に持ち替えて、何かでさかないかな』と、スタッフで知恵を持ち寄りしました。まだ昼食会は開催できそうにありませんが、食べることはできなくても利用者さんが元気になるお楽しみ会とかを計画したい。それまで元気でいてくださいと伝えていきたいです」とスタッフ代表の組合員さん。イベントが開催できれば200回目、繋がりを残す活動に今後注目です。

いきいき昼食会城東とは?

65歳以上の方を対象に、月1回城東組合員会館で楽しく交流する昼食会。1998年発足。



組合員活動の コーナー

新連載

第1回

広げよう! 里親の輪を

お話：大阪乳児院
「里親支援機関おむすび」
おおく 大句さん

未来ある子どもたちのために、
里親制度について知ることから
初めてみませんか?



みなさんにとって家庭、家族とはどんな存在ですか? 親や兄弟姉妹がいて、温かい団らんがあり、自分の居場所がある環境…。そんな家族のカタチを思い浮かべる方がほとんどではないでしょうか。血のつながりや戸籍上の関係が発生しなくても、固定観念にとらわれず、さまざまな事情で家族のあたたかさを知らない子どもを家庭に迎え、新たな家族のカタチを構築されている『里親家族』についてご紹介したいと思います。

共働きで3人の子育てをされているNさんは、「子育てを通して社会・福祉に貢献したい」という思いから養育里親(はぐくみホーム※)に登録されました。生後1か月の頃から乳児院で生活していたYくん(当時2歳)を1年前に迎え養育されています。最初は家の中でもNさんの傍を離れず、初めての場所では不安な表情で泣くことも多かったYくんですが、生活に慣れてくるとわんぱくぶりを発揮し、その対応に戸惑うことも多くあったそうです。時には家族会議を開いて話し合うこともあるそうで、「Yくんのおかげで家族の会話が増えました」とNさん。頑張りすぎないことをモットーに、たくさん愛情と安心・安全な生活環境の中、Yくんは地域の幼稚園に通いながら健やかに成長しています。

※はぐくみホーム…大阪府での「養育里親」の愛称

里親制度には5つのタイプがあります。

詳しくはこちら→→→

